

テーマ	主な意見	発言者
答申素案 第1章、第2章		
	P65に掲載してある窒素循環の図が粗くて読みづらくいため、修正すべき。	鶴田委員
	P77のアカミミガメとアメリカザリガニのコラムのタイトルは修正すべき。飼育を認めるということが今回の規制の趣旨ではない。何が規制されるのかを協調するようなタイトルとすべき。	鶴田委員
	P77のアカミミガメとアメリカザリガニのコラムのタイトルは変更したほうが良い。これらの種はあまりに身近になってしまい規制にも時間がかかってしまった。外来生物の脅威が拡大し、全国的に顕在してきたため外来生物法が制定され、今回さらに規制が厳しくなったなど、規制に至った経緯を記載していくべき。また、外来生物との付き合い方(みだりに放流しないなど)の普及啓発的な文章を追加するとよいのではないか。	須田委員
	ゼロドラフトから情報量が増えてより専門的になった一方で、わかりやすさとのバランスをどうとっていくか。	細野委員
	パブリックコメントのときにいろいろな方に読んでいただくように配慮が必要である。	佐伯部会長
	SDGsの目標がウェディングケーキでわかりやすく説明されている。また、ポストコロナのワンヘルスの内容も含まれており分かりやすくなっている。コラムも色々な分野のことが掲載されていて面白い。地域戦略が公表されるときには冊子になって都民はもらえるものになるのか。それともウェブ上のみの公開になるのか。	芳賀委員
	気候変動との関係について、身近な例も含めてアクションに繋がるような記述があるとより分かりやすいのではないか。例えば、洗面所の蛇口に付いてある節水を促すシールなど。日々のアクションにつながるようなコラムがあるとわかりやすいと思われる。	吉田委員

テーマ	主な意見	発言者
	人が手を入れるからこそ持続可能な利用ができることがある。里山イニシアティブの考え方など。人間が自然に脅威を与えるだけでなく、人間の活動が生物多様性にプラスに働くことを記載すると、より身近な説明になるのではないか。	吉田委員
	生態系サービスの供給の問題を取り上げるのか。農産物や木材が都内にどのくらい供給されているか、供給において東京都では川下から川上においてどうつながっているかという話に焦点を当てるかというのが気になった。 また、規制部会の方では土砂採取も問題になっていたの、例として挙げても良いかもしれない。 供給については、時間軸を取り入れるというのも一つある。例えば、古い時代は漆喰や炭などを供給してきた歴史がある。	下村委員
	東京は荒川と多摩川に囲まれていて湧水が大きな特徴。水資源の中で湧水について触れてもよいのではないか。	下村委員
	供給サービス、里山の生態系の話は触れてもよい。今のことではないが、かつてのこととして供給サービスで触れてもよいように思った。 東京の自然をどう使っているのか問題提起をするような内容を入れたほうが良い。	佐伯部会長
	全体的にかなり詳細に解説をして内容も厚くわかりやすくなっている。 東京における生物多様性の危機については非常に重要である。土地利用の変化は現実的にはかなり以前からの土地利用の転換が大きなインパクトを与えている。品田穰先生の「退行前線」など、自然環境が都心部からなくなったことで、生きものが都心部で住めなくなったというプロセスを記載していただきたい。	一ノ瀬委員
	東京湾の埋め立てについても歴史的な変化を地図で示していただくとも良いと思う。	一ノ瀬委員
	第2、3の危機で東京の現状について具体的なデータで示せていない。具体的に東京がどうなっているのかをデータを示しながら説明できると都民にもわかりやすい。東京レベルでのデータがあまりないのは承知しているが、具体的に東京がどうなっているのか、特定の場所しか情報がなければそれでもいいと思う。	一ノ瀬委員
	首都東京の特色がどう出ていくのか。アーバンネイチャーという都市の自然の記述が少ない。都市の自然をどう扱っていくかが大切である。 また、グリーンインフラや都市の中のみどりを守るだけでなく新しく創出する視点を入れるべき。 開発の中でどこに緑地を作っていくか、屋敷林などとの連結性をどう作っていくかということが重要である。	佐藤(留)委員

テーマ	主な意見	発言者
	<p>海外の事例を入れてもいいのではないか。他国の都市でビオトープをどんどん作っているところやロンドンのナショナルパーク構想などを紹介してもいいのではないか。</p>	佐藤(留)委員
	<p>OECMについて少し触れられているが、もう少し詳しく掲載してもよいのではないか。民間の取組促進だけでなく保護地域を核とした連結性の強化が重要なので、それを記載していく必要がある。</p>	佐藤(留)委員
	<p>湧水は非常に重要な視点で東京の宝である。台地部の崖線が東京のみどりの骨格の重要なエリアであり、その崖線が危機的な状況にある。崖線をしっかりと取り上げるべきではないか。緑確保の総合的な方針にも載っている崖線のマップを載せてもよい。</p>	佐藤(留)委員
	<p>P83の間接要因について、様々な分野の連携が薄いことが課題であり、都庁内でも連携が必要である。また、行政の連携とともに官民連携の中間支援的なハブがないことは課題として挙げてもらった方がいいのではないか。</p>	佐藤(留)委員
	<p>エリアを決めて、東京の自然がどうなっているかモニタリングすることも必要である。データを示していないと危機感が伝わらないと思われる。</p>	佐藤(留)委員
	<p>第2章のタイトルは「東京の生物多様性の現状と課題」と修正したほうがよい。東京の歴史、特色をだしていくべきである。危機的な状況の記載が弱いといわれているが、例えば、みどり率を地形ごとに示し、住んでいる地域がどれくらいみどりがないかを示せるとよい。レッドリストの掲載種で結構なので今後の内容の充実を図っていただきたい。</p>	佐伯部会長
答申素案 第3章、第4章		
	<p>各主体について、「子供」、「青少年」、「家族」といった主体の人たちがこの戦略の中で何をすればいいか見えてこないため、今後普及版を作成するのであれば、ファミリー向けにわかりやく伝えてほしい。</p>	佐藤(初)委員
	<p>地域連携保全活動センターの設置においても、都民・企業だけでなく、子供、家族も視野に入れた展開を図っていただきたい。</p>	佐藤(初)委員

テーマ	主な意見	発言者
	<p>第3章の主な将来像と課題については、ゼロドラフトのほうがわかりやすかった。これが課題でこれが将来像なのかというのは非常に重要なので、スペースを割いてほしい。見開きにしてもよい。また、皆さんからいただいた将来像の意見を入れられたらよい。</p>	鶴田委員
	<p>第4章は、第1～3章に比べて、都の取組の表現などが防衛に回っている感じがするのが気になる。表現の問題ではあるが、既存の枠組みの中で進めるように見える。将来像を本当に変える気があるのか、と思われる。</p>	鶴田委員
	<p>OECMが都の取組に多く入っているが、なぜOECMを進めていかないといけないかを丁寧に説明する必要がある。OECMは民間との連携というよりは、民間の取組により生物多様性保全が図られているということ。都の取組としてOECMをどう支援するのかまで踏み込んで記載していただきたい。</p>	鶴田委員
	<p>各主体の取組内容が細かいものと大きなものが混ざっている。大きなもので統一し、アクションプランで細かく記載するのが良いのではないか。また、海の取組が少ない気がする。</p>	鶴田委員
	<p>取組を主体ごとに記載しているため、それぞれの主体が連携してやらなければいけないところが薄くみえる。どうやって連携すればよいかということに記載するべき。</p>	鶴田委員
	<p>行動方針4-1「自然環境情報の収集・保管・発信」は重要である。地域活動拠点について入れていただいたが、情報収集保管発信はしっかり推進していく必要があるだろう。情報センターや博物館など拠点の検討も進めるべき。</p>	鶴田委員
	<p>エコロジカル・ネットワークの図について、生態系サービスごとの将来像から次のイメージへの繋がりがわからない。第4章をみるとなるほどと思う。 第1章で30by30の言及があるが、東京都では自然公園が36%あり、30by30は実現しているのに何が問題なのかというと、都市化して人口が密集している地域と山間部とで、自然が偏在しているということである。</p>	一ノ瀬委員
	<p>エコロジカル・ネットワークは重要だが、どういうネットワークを確保するのかは自然環境によって異なる。23区と山間部で何をしていくかは異なる。東京の自然環境の状況と絡めながら将来像を説明していく必要がある。 また、東京都の海域がどうなるのか触れられていない。</p>	一ノ瀬委員

テーマ	主な意見	発言者
	基本戦略Ⅲについて、IPBESの中でも行動変容が大変だというのは一番議論をされたところ。一方で、ここは「まず生物多様性を知りましょう」から始まっているが、これは2020年までと同じなのではないか。これまでも申し上げているが、都の役割は行動変容に関するところが一番大きいと思われる。とりあえず知ってもらう、ではなく企業連携などもっと踏み込んでいく必要がある。本当は基本戦略Ⅲを行動方針の一番前におくべきなのではと思う。	一ノ瀬委員
	気候変動のプランを引用しつつ地域戦略を作る必要があるのではないか。気候変動適応においては、自然生態系は大きな力を生み出すので、気候変動の分野は構成を検討した方がよい。	一ノ瀬委員
	第3章、第4章が地域戦略の肝であるが、踏み出しが甘いと感じる。また、P116の区市町村の取組で「いきものログ」があるが、「いきものログ」では東京都の生きもの情報は全て登録できない。まずは東京都としてデータベースを構築し、その上で他のものに協力するのがよいのではないか。	須田委員
	各局の計画との整合に引っ張られすぎると地域戦略の中身がなくなってしまう。この事業が地域戦略とどういう関連があるのか整理しておく必要がある。	須田委員
	事細かな自然史の情報は地域戦略に書き込み切れない。例えば副読本として、自然史や報告書、地形地質の論文、委員をはじめ多角的な見方を集約して作ってケアしたほうがよいのではないか。家庭や子供へのアプローチも含めて、地域戦略をケアできるしつらえがあるとよい。	須田委員
	P90のエコロジカル・ネットワークの図について、都内を思い浮かべにくい。東京の地形を反映したようなイラストにしてほしい。東京は水と緑の街。湧水も含め、水が巡っている、ビル街など東京らしさを出してほしい。	佐藤(留)委員
	130ページで地域連携保全活動センターへの言及があることは素晴らしいがもっと突っ込んでほしい。自然史博物館がないというのは様々な問題につながっている。東京にないというのがすごく足かせになっている。	佐藤(留)委員
	部局とか様々な主体・専門家が推進体制を作ることが重要。そういったものをセンターで回していけるとよい。推進体制の話を目次の最後にいれていただきたい。	佐藤(留)委員

テーマ	主な意見	発言者
	東京の自然を学ぶ場所がないということは大きな問題。崖線や湧水について知られていないことは由々しきこと。これまで担ってきた方々の歴史も置き去りにされている。まずはセンターを小さく産んで多く育てるのもよい。	佐藤(留)委員
	研究機関とのデータの連携が重要。データが散逸していて集まる場所がないため、収集して活用できる場が必要である。	佐藤(留)委員
	市区町村への働きかけもセンターが担うべきでは。OECDについても、区市町村版を作ったらいいのではという話もある。どうしていくかという議論をすることが必要。いい取組の横展開ができるとよい。	佐藤(留)委員
	港区で生物多様性緑化ガイドを作っているが、そういった先進事例を横展開していくことが重要である。	佐藤(留)委員
	第3章と第4章の冒頭で東京らしさを出してほしい。東京の持つ経済力を山地の方に還元するなど、先進的な取組もできるのではないか。	下村委員